

洞爺丸、1954年15号台風の北海道における被害の新聞記事

Newspaper Articles on Damage in Hokkaido due to the Tohya-maru Typhoon No. 15, 1954

北海道大学大学院工学研究科都市環境工学専攻

都市防災学研究室

相澤 梢

鏡味洋史

Laboratory of Urban Disaster Protection Planning

Division of Urban and Environmental Engineering, Graduate School of Engineering, Hokkaido University

Kozue Aizawa

Hiroshi Kagami

Abstract

It is believed that an invasion of strong typhoon to Hokkaido is very scarce because of her location. However the Typhoon No. 18 of 2004 attacked Hokkaido and caused heavy damage in wide area due to strong wind. Nine persons were killed and 475 were injured. Many buildings, infra structures, street trees, forests and so on were severely damaged. It is said that this disastrous typhoon was very similar to the Typhoon No. 15 of 1954 just 50 years ago. The previous typhoon is named as "Tohya-maru Typhoon" from the sea disasters of railway ferryboats with almost 1500 victims. And also a big fire was occurred at Iwanai Town under the strong wind and burned 80% of dwelling houses. These two events are still clear to our memory but other damages due to strong wind have been forgotten during a passage of half century. In this paper, literature survey for Tohya-maru Typhoon disasters is attempted in order to compare with the 2004 typhoon disaster. It is cleared that there is no damage reconnaissance report except those from meteorological point of view. Administrative documents are only found in fragmentary. In order to clarify more detailed damage newspaper articles were surveyed and listed by local municipalities.

1. はじめに

2004年台風18号は大型で強い勢力を保ったまま日本海を北上し北海道に接近し、9月8日早朝から昼過ぎにかけて、北海道の西海上を更に発達しながら北上し、9月8日15時に宗谷海峡で温帯低気圧に変わった。北海道では死者行方不明者9名、負傷者475名、全半壊家屋255棟の被害をもたらした。この台風は降雨は少なかった反面、風が非常に強く建物、街路樹、森林などに多大の被害をもたらした。この台風は、50年前に起こり同様に本道に多大なる打撃を与えた1954年台風15号（洞爺丸台風）と酷似しているといわれている。1954年台風15号は青函連絡船洞爺丸ほか4隻の連絡船が沈没し1430名の犠牲者をだしたことや、岩内大火によって岩内町の約8割が焼失したことはよく知られている。しかし、その他の被害については二つの大事件

に隠されてしまい、あまり触れられてこなかったのではないかとと思われる。そのため50年たった今、1954年台風15号による洞爺丸遭難と岩内大火以外の被害についても整理しておくことは今回の台風災害を考える上で重要であるといえよう。本論では1954年台風15号に関する既往の論文、報告および当時の地方新聞記事などを整理し、特に暴風に伴う人的被害と建物被害の詳細を明らかにする。

2. 文献調査

洞爺丸台風に関する文献調査を北海道大学図書館、北海道立図書館、北海道文書館などで行った。なお、北海道地区自然災害資料センターにもあたったが、関連の資料は発見されなかった。

2.1 関連論文

始めに台風およびその被害に関係する学会として日本気象学会、日本建築学会、土木学会の過去の研究・報告を調査した。1954年1月創刊の『天気』（日本気象学会）にいくつか1954年台風15号に関する研究・報告が掲載されている。

- (1) 台風第15号の経過概要と洞爺丸遭難当時の函館附近の気象 (1954.10)
- (2) 成熟した台風の温帯低気圧化の過程について (1982.12)
- (3) 台風の温帯低気圧化における移動速度の変化 (1983.9)
- (4) 洞爺丸台風の温帯低気圧化について (1983.9)

(1)は直後の報告であり気象概況が記されている。(2)-(4)は学術論文であり再発達のメカニズムを論じている。一方、日本建築学会、土木学会の学会誌、論文集等には関連する報告はなかった。

2.2 被害調査報告書

各図書館の文献検索を行ったところ、洞爺丸台風に関する報告書は意外に少なく、結局見つかったのは下記の4点である。岩内町の大火、洞爺丸海難、森林の復興に関するもので、被害一般の報告書は残されていない。

- (5) 岩内町編 (1955). 昭和29年9月26日台風十五号による北海道岩内町災害状況調査書
- (6) 青函船舶鉄道管理局編 (1965). 洞爺丸台風海難誌
- (7) 青函連絡船通信士会 (1979). 洞爺丸台風遭難通信関係記録
- (8) よみがえった森林記念事業実行委員会事務局 (1995). 森林復興の軌跡 洞爺丸台風から40年

次に気象庁関係の報告には次の3点が上げられる。

- (9) 気象庁彙報、第39冊、第3号 (1956). 昭和29年台風第15号報告
- (10) 札幌管区気象台 (1956). 15号 (Marie) 台風概報概説編
- (11) 札幌管区気象台 (1956). 同資料編

『気象庁彙報』は1956年2月に気象庁より発表された。この報告は234ページからなり台風第15号の経過概要、各地の気象状況、高潮の状況、各地の被害の報告などがなされている。被害報告の中で、「北海道においては今までに、台風が今回のような莫大な被害を惹き起した例は非常に少ない。今次台風の特徴は、風力が極めて強かった反面、降水量の少なかったことである。例えば、寿都、室蘭などでは瞬間最大風速が50m/sを超えているのに対し、降水量は稚内の65mmが道内の最多値となっている。この台風による気象災害は当然風による被害が主となる。事実、洞爺丸転覆をはじめとし、岩内の大火、農作物の被害、森林資源の風倒、その他本道に発生した各種の災害はいずれも強風が原因であり、豪雨や高潮などいわゆる水害はほとんど起

こっていない」と述べている。

札幌管区気象台の『15号台風概況解説編』では被害状況が述べられ、統計表が掲載されている。支庁別の被害状況を表1に示す。

表1 支庁別被害状況表（札幌管区気象台15号台風概況⁹⁾による。斜字は北海道年鑑¹⁶⁾による）

	人 的 被 害						建 物 被 害											
支庁	死者		行方不明		負傷者		全壊		半壊		一部破損		床上浸水		床下浸水		非住宅被害	
石狩	1	2			9	8	101	154	125	115	4042	4393					3651	3693
渡島	449	863	998	579	42	42	1085	730	2964	3123	30000	22809	126	126	423	423	5913	5932
檜山	1	2	1		15	68	394	461	650	638	3711	3711	17	17	315	315	1107	1201
後志	66	40	30	30	583	585	4007	4325	1836	1972	8747	3803	13	13	135	135	2327	2702
空知	23	8			289	322	1826	1906	6505	6479	13161	11359					9615	9770
上川	3	5			32	73	496	742	1513	1486	6782	13523					6201	7137
留萌					12	15	381	457	1966	2409	9193	4333	6	6	64	64	5984	6811
宗谷							4	1201	220	1420					20	100	1	125
網走	1	1					905	312	1534	293	2616	2207			10		1705	897
胆振					10	17	233	528	759	1279	125	4955			10		729	1170
日高							23	23	261	261	938	938					987	987
十勝			1	1			30	30	20	20	162	162					530	530
釧路	2	2	3	3			12	12	55	55	298	298	37	37	200	200	44	44
根室							5	5	19	19							15	15

2.3 行政史料

本研究では行政資料についても同様に北海道立図書館北方資料室、北海道札幌市立中央図書館、北海道文書館で収集したが、関連する資料はあまり残されていなかった。見つかった資料は以下の4つである。

- (12) 戦後における災害記録／北海道(1975)
- (13) 台風15号による被害状況／北海道(1954)
- (14) 台風15号資料／檜山支庁(1954)
- (15) 昭和二十九年台風災害関係／留萌支庁(1954)

(12) 戦後における災害記録

1961からは北海道として体系的な災害記録が北海道総務部災害消防課や北海道総務部防災消防課（時代によって機関の名称が異なる）によって毎年冊子として残されているが、それ以前は『戦後における災害記録』に一括してまとめられている。1975年2月に北海道総務部行政資料課から発行されたものである。その中の台風15号に関する記述は人的被害（死者923名、行方不明613名、負傷者1,130名）家屋被害（148,525戸）である。被害の詳細についての記述は無い。その他農業被害、土木被害、水産被害、林業被害、文教被害、開発局関係被害、電信電話関係被害、電力関係被害が金額で記されており、合計被害額は46,097,838千円に上ったとある。

(13) 台風15号による被害状況

北海道による1954年10月20日現在の記録である。4ページからなり、始めに災害救助法適用市町村一覧表が載せられている（表2）また、災害救助法適用市町村分布図を掲載している。さらに北海道の気象状況が記載されており、台風15号は時速90～100kmという異常に速いもので、また雨に比べ風が猛烈に強く特に台風15号の中心が過ぎ去ってから更に強くなっているとある。これは吹き返しの風が強かったことを意味する。

表2 災害救助法適用市町村

市	函館市 士別市	室蘭市 岩見沢市	芦別市	美唄市	夕張市	留萌市	苫小牧市	9市
石狩支庁	当別町	新篠津村	石狩町	千歳町	浜益村			5町村
渡島支庁	上磯町 知内村 福島町	尻岸内村 長万部町	榎法華村 銭亀沢村	鹿部村 松前町	砂原村 七飯村	森町 亀田村	八雲町 落部村	15町村
檜山支庁	大樽村 熊石村	奥尻村 貝取瀬村	東瀬棚村 厚沢部村	上ノ国村 瀬棚町	乙部村 泊村	久遠村	今金町	12町村
後志支庁	岩内町 倶知安町 真狩村 磯谷村	登足村 南尻別村 歌棄村 京極村	前田村 古平町 入舸村	小沢村 余市町 神恵内村	泊村 大江村 余別村	島野村 塩谷村 東島牧村	美国町 赤井川村 西島牧村	23町村
空知支庁	月形町 歌志内町 浦臼村 一巳町	新十津川村 砂川町 幌加内村 三笠町	北村 雨竜村 沼田町	江部乙町 北竜村 秩父別村	妹背牛町 音江村 滝川町	深川町 上砂川町 由仁町	奈井江町 長沼町 栗沢町	23町村
上川支庁	上川町 江丹別村 朝日村	美瑛町 東鷹栖村 東神楽村	當麻村 比布村 名寄町	鷹栖村 愛別村 中川村	神楽村 和寒町 東旭川村	神居村 風連町 美深町	永山村 下川町 剣淵村	21町村
留萌支庁	増毛町 焼尻村	小平村 幌延村	鬼鹿村	苫前町	羽幌町	初山別村	天売村	9町村
網走支庁	雄武町	上湧別村	興部町	滝ノ上町	西興部村			5町村
胆振支庁	豊浦町	伊達町	幌別町	白老村	穂別村			5町村
十勝支庁	広尾町							1町
日高支庁	日高村							1村

(14)台風十五号資料（檜山支庁）

檜山支庁が災害救助法の適用にあたって作成した資料と思われる。台風十五号資料の中の台風15号による被害状況表に檜山支庁の様々な被害の全容が載せられている。檜山支庁に属する江差町、上ノ国村、泊村、厚沢部村、乙部村、熊石村、貝取瀬村、久遠村、奥尻村、大樽村、瀬棚町、東瀬棚町、今金町についての人的被害、家屋被害、農業関係被害、林業関係被害、土木関係被害、水産関係被害の金額が千円単位で記されている。人的、家屋被害については細かく記載されている。熊石村と久遠村で死者が1名ずつ、負傷者は檜山支庁全体で74名となっている。家屋被害は支庁全体で全壊463世帯、半壊695世帯、一部破損は不明となっている町村もあるが合計で5283世帯、床上浸水16世帯、床下浸水417世帯と記録されている。

(15)昭和二十九年台風災害関係（留萌支庁）

留萌管内災害対策委員会より出された15号台風災害についての陳情書で留萌支庁における様々な被害の全容および復興に関する記述がある。住宅被害、公共施設関係、農業施設関係、水産関係、開拓関係、社会福祉関係、林業関係についての応急対策、恒久対策について記載されている。以下住宅被害に関するものを抜粋し抜き出す。

応急対策について

全壊236戸、半壊1262戸、屋根その他の破損9118戸を算し、しかもこの殆どが資力を有せざる者、所謂中流階級以下の住宅であり、冬季を目前にしてこれの復旧は特に緊急を要するので次の如き措置を講ぜられたい。

全壊家屋については、災害救助法による仮設住宅33戸の設置、入植者住宅を23戸、引揚者住宅を35戸、住宅金融公

庫の融資によるものを47戸、公営住宅76戸を建設するよう要望している。半壊家屋については災害救助法による応急修理費によるもの309戸、入植者住宅49戸、町村に融資を要するものが588戸ある。

前述のように、北海道の14ある支庁のうち宗谷支庁、釧路支庁、根室支庁を除く11の支庁に属する市町村に災害救助法が適用された。そのことから檜山、留萌支庁以外の支庁も何らかの災害報告を作成し災害救助法適用を申請したことが考えられるが、見つからなかった。

2.4 他の史料

その他の史料として、北海道年鑑がある。北海道新聞社が毎年発行しているものであり、昭和30年版では、台風15号に関する特集を組んでいる。全体的な被害状況、連絡船の遭難、岩内町の大火、道の被害地対策などがまとめられている。以下、被害に関する記述を表3に抜き出す。

(16)北海道新聞社(1955)。「北海道年鑑昭和30年版」

表3 被害一覧(北海道年鑑¹⁶⁾による)

被害項目	被害件数、被害金額
人的被害	死者923名、行方不明613名、負傷者1130名、計2666名
家屋被害	全壊および全焼9689戸、半壊18,369戸、破損77,491戸、床上浸水199戸、床下浸水1167戸、非住家(学校以外の公共施設)41,610戸、計148,525戸、被害総額17,052,165千円
文教施設被害	1051校、被害総額672,554千円。
農業被害	農作物299,129町9反、農業施設28,137件、家畜被害1,069頭、被害額9,912,969千円
林業被害	立木3000万石(うち国有林2400万石、道民有林600万石)被害額150億円
水産被害	漁船2226隻、漁具138,388件、施設7,240件、漁港60件、その他製品、海藻など191.万貫、被害額2,450,126千円
土木被害	河川61ヵ所、海岸90ヵ所、道路146ヶ所、橋梁34ヵ所、港湾33ヵ所、被害額446,906千円
直轄公共事業被害	(北海道開発局関係一道路、河川、港湾など)被害額222,781千円
電電公社関係被害	電話故障1116回線133,364個、電信故障189回線、電柱倒壊22,30本、被害額9500万円
北海道電力関係被害	(電力、通信、無線、信号、各施設)被害額2億4534万円
日本国有鉄道関係被害	(青函連絡船、鉄道、その他)被害額調査中

また、支庁市別被害状況表が掲載されている。前掲の表2に斜字で示す。支庁別の被害統計は前述の札幌管区気象台の「15号台風概報」と「北海道年鑑」だけで、非常に貴重な資料といえる。しかし、そこに記載されている数字には大きな開きがある。集計日時の違い、あるいは死傷者については被災場所/住所による違いなどと考えられる。

3. 新聞記事

3.1 新聞記事の検索

ここまで既往の研究・報告や行政資料について調査したが、現存する資料は非常に少なく、15号台風の被害の全容を知るには不足するところが大きい。そのため、今台風災害の細部を知るため、北海道の地方紙である北海道新聞と北海タイムスの1954年9月26日から同年10月末日まで台風15号関連の記事を調べた。北海道大学附属図書館に保管されている2紙のマイクロフィルムによる調査をした。北海道新聞については全号揃っていたが、北海タイムスについては災害直後の27日朝刊が欠号、27日夕刊1,2面欠面、28日朝刊5,6面欠面、28日夕刊欠号、さらに10月5日夕刊欠号、25日夕刊3,4面欠面と欠落が多い。欠落部分については北海道立図書館にて原紙も調査したが同一部分が欠落していた。しかし、北海道新聞と異なる記事も少

なくないので資料としては有用である。

北海道新聞、北海タイムスのほかにも当時地方紙は存在した。十勝毎日新聞、苫小牧民報、室蘭民報、など様々であるが、欠号、欠面があまりに多く、資料として体系的にまとめるのは困難であるため今回は台風15号関連記事がほぼ残っていると考えられる北海道新聞と北海タイムスに絞り、まとめることとした。

3.2 北海道新聞台風15号関係記事

台風接近の情報が掲載されている9月25日から10月31日までを対象として、関連記事を抜き出し資料とした。欠号のない北海道新聞の見出しについて整理すると、10月31日までの総記事数は620で内訳は以下のようになる。

表4 北海道新聞の記事数の内訳

項 目	記事数
洞爺丸遭難関連記事	294
岩内大火関連記事	52
行政対策関連記事	114
その他被害関連記事	49
その他15号台風関連記事	74
義捐金関連記事	37
総記事数	620

上に挙げたように、洞爺丸台風関連の記事はそれだけで全体の約半数で大きな社会的関心事とされた。次いで、岩内大火は約1割を占めるが、その他の被害に関するものは全体の1割にも満たない。また、災害直後は洞爺丸沈没など被害に関する記事が多いが、徐々に行政対策や義捐金の記事が増えていくのがわかる。

洞爺丸の遭難が青函トンネル実現に大きく関わったとされているが、たまたま26日の朝刊にトンネルのための地質調査が記事になっている点は興味深い。また、気象状況については、台風が九州地方に被害をもたらしていたことを伝えてはいるが、紙面は非常に小さく、北海道に被害を与える可能性については書かれていなかった。この時点では北海道に大きな台風被害をもたらすことは誰も予見していなかったようである。

3.3 新聞記事から見る被害

洞爺丸遭難、岩内大火以外の被害記事を人的被害、建物被害、その他被害に分け地域ごとにまとめ表5に示した。なお、1954年当時の市町村を現在の市町村に対応させている。

人的被害は、後志、胆振、日高、空知、上川支庁に被害の記事がみられる。死亡者3名、負傷者30名、行方不明者13名を数えることができ、被災状況が追跡できる。死者は廣島村での家屋倒壊、三笠町の事務所アーチの倒壊および上川町の倒木による下敷き2名である。不明は漁船の13名である。負傷の原因は集合煙突の倒壊、落下物、飛散物、倒木などであり、被災状況はいずれも風によるものである。いかに風の影響の大きい台風であったかがわかる。

建物被害は台風経路側に被害が多く渡島、桧山、後志、石狩、胆振、上川、空知、留萌、宗谷の各支庁に被害の記事があった。被害のほとんどは風によるものである。浸水被害も出てはいるが、記事にはでていない。火事による被害の原因も風による住宅倒壊によるもので、風被害とも言える。三笠市では全家屋の8割、増毛町では全家屋の9割以上の被害が出ており、被害の大きさがわかる。また、文教施設被害関連の記事が多い。住宅に関しては、屋根トタン、屋根桎、煙突倒壊の被害が多く、桎の値段が跳ね上がったという記事があった。

その他の被害は台風経路側に被害が多いが、網走支庁、日高支庁など、台風経路から外れる地域にも被害

記事が見られる。被害が見られるのは石狩、渡島、檜山、後志、留萌、空知、上川、網走、胆振、日高支庁である。停電の被害が全道的にあったことがうかがえる。また停電や船の沈没により一部地域で交通手段が途絶していたこともわかる。“電話不通のため不明”“被害甚大の模様だが通信途絶して詳細不明”など通信手段にも大きな被害があったことがわかる。農業被害も多く出ており、ブドウ畑の全壊などのほか、結実した粃がほとんど吹き飛ばされ、残っていてもカラ粃だけという状態の地域もあった。以上のことから台風が北海道民生活に非常に大きな影響を与えていたことが、被害の詳細を知ることでも明らかになった。これらは行政報告から被害の数値を見るだけではわからないことであり、台風被害を知る上で非常に重要なことであるといえる。

4. まとめ

1954年台風15号は本道史上最悪の被害をもたらした台風としてよく知られている。しかし、洞爺丸ほか四隻の連絡船が沈み多くの犠牲者をだしたことや岩内大火によって一つの町ほとんどが焼けてしまったことについては有名であるが、その他の人的被害、建物被害については二大事件に隠されてしまいあまり知られていなかった。

本調査を通じて、本道に甚大な被害をもたらした台風であるにも関わらず、関連学会から被害に関する研究・報告が少なく行政資料も散逸していることが明らかにされた。さらに残されていた資料からわかる被害統計にも資料ごとに違いがあり、被害の全容をはっきりと知ることは困難であった。

しかし、既往の研究報告、行政資料による調査に加え、地方紙を調査することにより、全道各地で起こった被害の詳細を断片的にはあるが明らかにすることができた。具体的に、建物被害には文教施設の被害が多く、多くの小中学校で屋根が飛んだり、壁や天井がはがれたこと、住宅では屋根トタンや屋根桙が壊れる被害が多かったことがわかった。15号台風は岩内大火以外は風による被害が主だと思われていたが、火事による被害も数件あったこともわかった。また、人的被害では風倒木に当たる、飛んできた看板に当たる、家屋の下敷きになるなどの風が原因となった被害が多くあった。その他被害では停電が全道的、電信電話も不通、船舶沈没および線路の故障による交通障害、農業被害も数多くでており、道民の生活に大きな影響を与えたことがわかった。

今回の調査は比較的短時間のうちに行った。行政資料など未発見のものも少なくないと思われる。機会を見て新資料の発掘に努めていきたい。

表5 洞爺丸関連新聞記事一覧

(○北海道新聞記事、▽北海タイムス記事、*は災害救助法適用市町村)

	現在の市町村名	1954年市町村名	新 聞 記 事		
		人 的 被 害	建 物 被 害	そ の 他	
石狩支庁	札幌市	札幌市	上白石一区村井武夫さん一家2名が集合煙突倒壊のため重軽傷を負った(28夕)	○駅前吹抜き倉庫全壊一棟(27朝) ○白川小学校で、玄関が全壊、吹きこんだ風のため教室、廊下の壁、天井などが浮きあがり応急処理を必要としている。損害額約11万円(28朝) ○豊水小では屋根塀など約7万円、その他のところでは皆無の二条、東園、日新、南、未報告の上野幌、東米里を除けばいずれも千円-1万円程度の被害(28朝) ○中学校では北辰中学のトタン40枚、野球ネットの倒壊などの10万円を筆頭に無傷だったのは一条だけ(28朝) ○体育館(12万円)総合グラウンドの便所(1万円)中島球場の外塀(90万円)など体育施設の被害を含めると総計約198万円に達している(28朝) ▽札幌市は朝から秋晴れの天気恵まれたが、町のそこかしこには倒れた並木や屋根、塀の吹飛ばされた残骸が、暴風雨の猛威のあとをまざまざとみせている、市内および近郊の損害は相当の数にのぼり、殊に学校と近郊の農作物の被害が目立った(28朝) ▽啓明中、北九条小、西創成小、豊平小などがいずれも屋根、塀など延70坪を吹飛ばされたが直ちに修理したので授業には差し支えなかった。このほか中島球場の塀65間が吹飛ばされたのをはじめ、市役所西出張所の屋根15坪、市消防署の西創成、幌西、白石、山鼻出張所がいずれもガラス、屋根などを破損、また一般の建物では北海道電気株式会社の73坪全壊を筆頭に全半壊あわせて12戸約300坪、これに5、6坪程度の損害を加えると530件、3846坪にのぼっている。このほか塀倒壊79件、613間など。(28朝) ○南六条西十三市西区出張所のトタン屋根20坪ほどが暴風のため吹飛ばされたのをはじめ、屋根の破損、板塀の倒壊、大看板の破壊などは数え切れないほどで、午後10時現在市消防本部で集計中のものだけでも被害家屋は100件を越えており、集合煙突の倒壊も上白石、山鼻、円山地区にある(28夕)	▽集合煙筒倒壊4、電柱倒壊14などが主なものの、電気関係では藻岩発電所から円山変電所、小樽市から札幌市にいたる両配電線各所で切断、このため市電は26日夜10時から27朝8時半まで市電前線がストップした。(28朝) ▽河川22ヵ所、道路42ヵ所が被害(29朝) ○26日夜10時過ぎ送電線が故障して全市が停電。38両の電車が立往生させられ運転手も車掌さんも車をすてて帰宅するわけにもゆかず、そのまま夜明し、市交通局では27日の朝になっても復旧せず、主要停留所に職員を動員、さらに小型自動車もくりだして、“定期券でバスに乗れます”と市民にふれ回った。バスも各路線に2割増の増発をしたが間にあわず、都心へ向って歩きたす学生や通勤者の列が長々とつづき、市役所などは定刻の8時に登庁できたのは5割程度。会社、官庁でも9時過ぎにようやく7割程度という状態。8時35分に一条橋-円山間が開通したのをはじめ、他の路線も9時過ぎまでには平常にかえり、市民をほっとさせた。大量38両の立往生と長時間の停電では市電始まって以来の記録。(28夕) ○札幌名物の街路樹も暴風にあおられ、根こそぎなぎ倒しとなり、とくに被害の大きかったのは札幌駅前および南4条線のアカシア並木で、円山、中島公園内がそれに続き、創成河畔、札幌中央放送局前の柳の老木も折れるというすさまじさ。市では30名の係員を動員して暴風の後始末にかかっているが街路樹の被害だけでも200本以上にのぼるものとみられている(28夕)
		琴似町	▽学校=新琴似小屋内運動場屋根65坪破損、新琴似中総合煙突1基折損、中央小トタン屋根65坪破損、新川小屋根28坪破損、琴似小トタン屋根50坪、発寒小屋根8坪、琴似中屋根30坪など屋根破損合計270坪。また琴似保育所屋根8坪破損があった。(28朝) ○新琴似小学校の東側屋根が大破したほか、民家に相当の被害。(28夕)	▽農作物=水稲は反当り5、6分の落穂、長芋倒伏により五分作、リンゴは四割程度落果の見込み。その他兵村の防風林ポプラ約200本が折損(28朝) ○果樹園に相当の被害。(28夕)	
		豊平町	▽月寒競輪場の選手控所が倒壊(28朝) ○札幌競輪場の木造二階建て延べ14坪の番組編成室とこれに付属した縦9尺、横3間の確定掲示板が全壊(被害総額46万円)また石山中学、藤ノ小学校、常盤中学校の校舎は相当の被害を受けて校舎が傾いたため臨時休校した。とくに石山中学校は応急修理だけでは使用不可の状態である(28夕) ▽小中学校の被害291万円。(2朝)	▽定鉄は沿線の樹木が線路上に倒伏し、26日夜8時55分豊平駅発定山溪行きから運休、27朝9時45分に復旧、リンゴは平岸地区200町歩のうち旭、十二号など早生物が約7割、晩生種が約4割落果、全町の被害は8万箱にのぼる見込み、その他デントコーン、豆類、ソバの大半が倒伏(28朝) ○リンゴ園の被害大(28夕)	
		手稲町	▽家屋=全壊1戸(二階建て40坪)半壊2戸、屋根の破損150戸、レンガ建口舎55坪の三分の一倒壊、納屋10棟50坪倒壊、木造サイロ全壊2基、半壊5基 ▽学校=東小屋根14・5坪、扉1枚破損、手稲中屋根24坪破損、浴場6坪倒壊、北小屋根24坪、同教員住宅屋根44坪破損、中央小屋根47坪、窓枠4枚破損(28朝) ○手稲小学校の屋根大破(28夕)	▽農作物=水稲約540町のうち2割落穂、トウモロコシ約28町のうち4割全滅、デントコーン約170町のうち4割、牧草100町のうち1割、果樹45町のうち9割落果、ソバ9町のうち5割、温床障子100枚全滅(28朝)	
		篠路村	▽家屋=全壊1戸(20坪)(28朝)	▽水稲=反当り5、6分の落穂の見込み(28朝)	
		札幌村	○民家大破、全壊十戸(28夕)	▽農作物のうちデントコーン約160町歩倒伏(28朝)	
	江別市	江別町	○屋根損害1500戸、看板その他被害90個所(27朝)		
千歳市	*千歳町	○幸町三駐留軍要因松本勝則さん(60)は風のため飛んできた看板のため右足骨折で全治7週間の重傷(27朝)	○第二基地通りで電柱20本のほか町内各地で電柱が倒壊。電話線も支筋線ならびに胆振、幌内線は断線不通となり、また屋根のはがれたもの、看板の損害などは全町的だった。(27日号外) ▽青葉公園内の風倒木2千万石(2朝)		

	現在の市町村名	1954年市町村名	新 聞 記 事		
			人 的 被 害	建 物 被 害	そ の 他
	恵庭市	恵庭町		○漁市街竹内アパート＝竹内熊治郎さん所有＝二階建三十坪が26日午後9時ごろ倒壊。また27日午前零時半頃同町恵庭中学校増築工事中の1教室8坪が倒壊するなど合計全壊10戸、半壊10戸をだした(27日号外) ▽村市街地のアパート(10数世帯)をはじめ家屋約200戸が全壊(28朝) ○合計全壊21戸、半壊11戸(28夕) ▽住宅の全壊はアパート一棟10世帯を含め30戸387.5坪、半壊3戸47坪、非住宅では建設中の恵庭中学校に教室50坪を含め納屋、畜舎など145棟314.5坪、その屋根などの小中破は殆ど全町におよんでいる(29朝)	○26日午後6時半ごろから全停電(27日号外) ▽電柱倒壊250本、変圧器故障10個などを除き被害額は2450万円に上っている。田畑の被害に関しては□作後であったため畑作では3割5分718町歩で大豆、小豆、トウモロコシ、ビート、ソバなど2917.5万千円、また水田は9割強約1700町歩におよんで被害があり、約5600石の減収で5594.7万円の被害が予想されており、被害総額は1億1千万円と見積もられている。(29朝) ▽町内電話14線、郡部照明設備などは未だに復旧の見込みがついていない(29朝)
	石狩市	*石狩町		▽学校＝東小屋根50坪大破、石狩小屋根80坪破損。 家屋＝町営住宅屋根7棟35坪破損、一般住宅全壊5戸、大破15戸、中破30戸、小破50戸、引揚者住宅屋根3棟90坪中破、床下浸水20戸(28朝)	▽船＝町有発動機船、石狩川渡船、各1隻沈没、農作物＝ソバ約40町のうち5割、デントコーン28町のうち5割、トウモロコシ40町のうち5割、大豆35町のうち5割がそれぞれ相当な被害、水稲1528町が反当6升の落穂(28朝) ○渡船場の動力船一隻沈没のため交通遮断(28夕)
	北広島市	広島村	○広島村字富ヶ丘太田よしさんは全壊家屋の下敷きとなり死亡した(27朝) ▽富岡部落の太田ヨシさん(67)は26日夜9時30分ころ、自宅から避難しようとした時、自宅15坪が倒壊、下敷きとなって即死(28朝)	▽家屋全壊1戸、納屋など全壊1、半壊2(28朝)	
	新篠津村	*新篠津村		▽家屋全壊30棟半壊70棟、納屋など全壊50棟、半壊100棟その他全戸の約4分の1が大破(28朝) ▽小中学校の被害96万円(2朝)	▽電柱倒壊約30本(28朝)
	当別町	*当別町		▽小中学校の被害114万円(2朝)	
渡島支庁	函館市	*函館市	○26日午後8時ごろ函館市松風町7拓銀松風町支店前で市内谷地頭町函館電報局若葉寮内輪鳴俊治さんは落下物を頭に受け生命危篤。(27朝) ○函館中央署管内＝死亡2名、重傷1名 ○函館西署管内＝重傷2名(27日号外) ○函館中央署管内＝死亡2名、重傷1(28夕) ○函館西署管内＝死者1、負傷者40(28夕)	○午後7時すぎからは家屋の倒壊が続出、午後11時現在全壊3戸、半壊4戸で市民は不安な夜を過ごした。(27朝) ○函館中央署管内＝家屋倒壊20戸、同半壊60戸 ○函館西署管内＝家屋倒壊1戸、同半壊3戸(27日号外) ○函館中央署管内＝家屋全壊40、同半壊100、屋根の破損5千、(28夕) ○函館西署管内＝家屋の全壊86、同半壊283、屋根一部破損363、板塀破損73(28夕)	○午後3時ごろから停電、通信の被害続出(27朝) ○函館中央署管内＝船舶沈没10隻、同流失10隻 ○函館西署管内＝漁船遭難2隻(27日号外) ○函館中央署管内＝漁船の流失20、同破損50、道路決壊3、橋梁の流失1、配管(湯川)の流失1(28夕) ○函館西署管内＝防波堤決壊1、電柱倒壊66(28夕)
	松前町	*松前町	○午後4時5分ごろ松前町字博多松谷富之さん住宅が倒壊、下敷きになった富之さんは顔と左手に負傷(27朝) ○松前署管内＝重傷1名(27日号外)	○松前署管内＝家屋倒壊1戸、同半壊3戸(27日号外) ○全壊1、半壊2(28夕)	
	知内町	*知内村		○倒壊家屋(漁場番屋を含む)13戸(28夕)	
	木古内町	木古内町		○倒壊家屋10戸(28夕)	○電柱倒壊40本、電線切断100ヶ所、トランス脱落8台、稲の穂が飛散、トウモロコシ、デントコーンは全滅に近い被害を受けている(28夕)
	森町	*森町	○死傷者不明(28夕)	○家屋全壊10、同半壊30、火災3件(28夕)	
	八雲町	*八雲町			○畑の冠水若干、その他不明(28夕)
	戸井町	戸井村			▽護岸がいたみ、埋立地が流失した(29朝)
	江差町	江差町		○江差署管内＝家屋半壊10戸(27日号外)	○江差署管内＝漁船流失1隻(27日号外)
桧山支庁	奥尻町	*奥尻村		○全壊1、半壊1(28夕)	○奥尻港内では道開発局のチャッカー船(1.5t)が沈没(27朝) ○漁船の沈没2、同流失1(28夕)
	瀬棚町	*瀬棚町			○電話不通のため不明(28夕)
後志支庁	小樽市	小樽市		○赤岩町木造民家2棟倒壊(27日号外) ○正午現在の調べによると、市が4百万円の予算で新築中の旭ヶ丘中学増築四教室が倒壊したのをはじめ、民家、自動車庫など20棟764.2坪が全壊し、銭函町新宮商工合宿など八棟157.5坪が半壊、屋根の吹飛ばされたのはおびただしく、特に学校関係に多く、末広中学校および手宮西小学校の屋根合計411坪が吹飛ばされたが、屋根柱、トタンを飛ばされたものは市内だけで1万坪を超える見込み(29夕)	

現在の市町村名	1954年市町村名	新 聞 記 事		
		人 的 被 害	建 物 被 害	そ の 他
	*塩谷村		○塩谷村蘭嶋1 倒壊25戸、家屋の中小破30戸（27日号外）	○塩谷村蘭嶋一馬2 頭死亡、磯舟1 隻大破、ブドウ畑10町歩全壊（27日号外）
島牧村	*西島牧村	▽既報＝27朝道警本部に入った情報で26日夜島牧郡西島牧村？村道で山津波があり人夫約40名が生埋めとなったとあったが、その後詳報でこれは26日午前零時ごろ同村道路工事飯場崖上のブナ4 本中直径約5尺の一本が強風で倒れて飯場の上に倒れ、このため40名の入夫中10名が負傷したものと判った。（28朝）		
寿都町	寿都町	○軽傷3（28夕）	○全壊10、半壊40、屋根の破損百（28夕） ○26日午後10時現在家屋全壊10戸、半壊30戸、火災5 件（27朝）	
仁木町	*大江村			▽仁木方面のリンゴ園はリンゴが全部落ちたばかりでなく樹木が相当数倒れ収穫皆無。さらに今後の生産にも莫大な影響を及ぼす（29朝）
余市町	*余市町			▽余市方面のリンゴ園はリンゴが全部落ちたばかりでなく樹木が相当数倒れ収穫皆無。さらに今後の生産にも莫大な影響を及ぼす（29朝）
空知支庁	夕張市	*夕張市	○全壊8戸、半壊332戸（27朝）	
	岩見沢市	*岩見沢市	○住宅倒壊3 戸、非住家10戸（28夕）	○牛2 頭顔死、電柱倒壊150本、電線の切断で停電し、電信、電話とも市内不通箇所約200件、市外通話は岩見沢から三笠栗沢、月型方面は不通、農村方面では水稲はすでに結実した早生種の穂が吹飛ばされ茎の固い石狩白毛は倒伏、ひどいところに残っているところはカラコシというありさま、畑作ではトウモロコシ、デントコーン、大小豆、ソバ類が根こそぎ倒れた（28夕）
	美瑛市	*美瑛市	○27日午前7 時現在、美瑛市内で死者1名、重傷4 名、軽傷3 名(27日号外) ○27日午前7 時現在、美瑛市内で家屋全壊133戸(非住家含む) 半壊199戸（27日号外） ▽美瑛原野開拓者の台風被害は家屋326棟(39万2275坪) 損害額2582.1万円、住宅は全壊81棟177.7万円、半壊16棟213.3万円、納屋は全壊33棟250万円、半壊11棟55万円で根こそぎ吹飛ばされたことをはつきり表している。このほか畜舎の被害40棟175万円、サイロ、集会所の全壊84万円があり、復旧費は住宅3990万円、納屋6654万円、畜舎350万円、サイロ、集会所169万円など計5164万円が応急復旧のため必要とされている。（10朝）	○27日午前7 時現在、電柱、立木などの倒壊は夥しい数にのぼっている（27日号外） ▽農作物減収4138.7万円、計6718.8万円にのぼり、農作物関係は耕作面積7693町歩全部が被害を受け、開拓地の主作物である小豆2183町歩、燕麦1615町歩、大豆783町歩をはじめ全畑作が被害を受け、小豆は1843町歩、大豆652町歩、燕麦442町歩は収穫皆無という惨めさ。この減収を金額に換算すると総額4136.7万円に達し、ひえ、そばの95㍉収穫減、小豆菜豆の85㍉収穫減、大豆八3㍉減収、という工合で家、納屋等を失った開拓者の収穫も自家用にすらくとなくという状態である。（10朝）
	芦別市	芦別市	○布部駅待合室1 棟全壊（27朝）	
	赤平市	赤平町		
	三笠市	*三笠町	○住友彌生鉱事務所前の木製アーチが倒壊して死者1 名を出した（28夕）	○家屋倒壊約10戸、半壊約400戸、屋根トタン、柱、煙突の吹飛ばされたもの全家屋の8 割（28夕）
	滝川市	*滝川町	○消防車に乗って警戒巡回中の滝川消防署消防士柿崎富安さん(28) が飛んできた縦三尺、横六尺のトタン板により破られた消防車の窓ガラスによって左眼に重傷を負った（27日号外）	○国鉄滝川駅の跨線橋の一部および江部乙駅の跨線橋が倒壊した(27日号外)
	砂川市	*砂川町	○重軽傷3（28夕）	○電柱倒壊約600本、果樹全滅、農作物の被害大（28夕）
		納内村		○納内駅では全駅員避難（27朝号外）
	北村	*北村	○役場住宅9 戸270坪、東中学校屋体72坪、消防車庫12坪全壊、家屋の半壊100戸、畜舎の半壊200戸、破損100戸、その他役場庁舎10坪崩壊、二区乙の神有吉さん方は住宅が倒壊と同時に発火し12坪を全焼した（28夕）	
	奈井江町	*奈井江町	○家屋倒壊2、納屋20、家屋大中破200（28夕）	
	上砂川町	*上砂川町	○上砂川＝家屋倒壊2、家屋破損1500（28夕）	

	現在の市町村名	1954年市町村名	新 聞 記 事		
			人 的 被 害	建 物 被 害	そ の 他
	浦臼町	*浦臼村		▽住宅全壊26戸、半壊170戸、納屋の全壊84、半壊250、屋根の吹飛ばされたもの27600坪、煙突倒壊450件、被害総額5千万円 (29朝)	▽第十九地区は全部落50戸が総潰れ。電信電話不通。ラジオも電灯もつかず。(29朝)
上川支庁	旭川市	旭川市		○屋根破損 4 戸、34坪 (27朝)	○27日午前 3 時半ごろには瞬間最大風速 20メートル以上および全市は停電 (27朝)
	富良野市	富良野町		○富良野農協倉庫 2 棟100坪全壊 ○同日通倉庫一棟半壊	
	当麻町	*当麻村		○石北峠伊香牛駅待合室も一部倒壊 (27日号外)	
	上川町	*上川町	▽26日午後の台風で上川町字層雲峡清水建設飯場で倒木のため作業中の同組柏木□□岡由雄さん(40)広野組佐々木□人?前野又吉さん(30)と氏名不詳の一名が大木の下敷きとなり即死したほか重症13名を出した。(28朝)		
留萌支庁	留萌市	*留萌市		○家屋倒壊32戸、同半壊194戸、倉庫倒壊9棟、屋根破損700戸 (千三百棟) 窓ガラスの板戸破損1200枚、煙突倒壊300ヶ所 (28夕)	○電柱倒壊6本、北電変電所全壊 (1 棟62坪) 家畜被害めん羊 2 頭、ニワトリ 30羽、水田10町歩 (28夕)
	小平町	*小平村		○家屋全壊19戸、半壊1戸、屋根損壊線600坪相当、また大潮のため 2 戸浸水 (28夕)	○磯舟流失20隻、発動機船沈没 1 隻 (28夕)
		*鬼鹿村		○全壊家屋38戸、同半壊75戸、屋根破損600坪相当 (800戸) (28夕)	○アキアジ網 2 ヶ所流失、動力船 2 隻沈没 (28夕)
	増毛町	*増毛町		○家屋全壊 (納屋を含む) 130戸、同半壊1050戸、屋根破損は全戸数の90パーセント以上に及ぶ (28夕)	○リング園70町歩 (28夕)
	羽幌町	*羽幌町			○留萌、羽幌地区、被害甚大の様様だが、通信途絶して詳細不明。(27朝)
宗谷支庁	稚内市	稚内市		○小学校倒壊 1 (27朝)	○LST 型船舶沈没 1 隻 (27朝)
	猿払村	猿払村			▽猿払チライベツ間決壊 (29朝)
	浜頓別町	浜頓別町			▽浜頓別常盤間の落合橋が不通 (29朝)
網走支庁	北見市	北見市			○27日午前零時過ぎから平均風速15、6メートルとなり、全市停電で、被害は不明 (27日号外)
		東山村			
	網走市	網走市			○27日午前零時ごろより暴風状態に入り全市停電、被害目下不明 (27日号外)
胆振支庁	室蘭市	*室蘭市	○負傷者 3 名 (27朝) ○輪西駅のホームが吹飛ばされ、なかにいた伊達町末永トシさん(62)が負傷した (27朝) ○28日午前10時現在重傷 1、軽傷 10(28夕)	○26日午後 7 時から突風40メートル以上、瞬間最大風速55メートルと30年来の猛威を振るい、全壊家屋 4 戸、同半壊25戸、このほか御前水町日鋼切割社宅一棟 4 戸の屋根がもろに飛ばされたのをはじめ、民家 30数戸が屋根をはがされ、とたん、柱に被害を受けたもの500戸以上 (27朝) ○28日午前10時現在家屋全壊20、大破99、中破24、小破335(28夕)	○全管内とも通信、交通被害甚大の見込み (27朝) ○電柱倒壊36、電線切断31、風倒木76、被災者数660名、このほか驚別変電所の故障、高圧線の切断、事故で全市の送電は止り、復旧は27夕刻までに全市の1/3、北電支店管内の完全復旧には 3、4 日を要する見込み (28夕) ▽道路決壊 4 (29朝)
	苫小牧市	*苫小牧市		○住宅全壊32 (非住宅物置を含む) 住宅半壊66 (28夕)	○電柱倒壊31 (28夕)
	登別市	*幌別町		○幌別駅の待合室が吹飛ばされる (27朝)	
	伊達市	*伊達町			
	豊浦町	*豊浦村		○豊浦駅の待合室が吹飛ばされる (27朝) ○民家3戸全壊	
	虻田町	虻田町		○住宅半壊 4 戸、非住宅全壊 9 戸、半壊 4 戸、屋根桁大破百155戸、亜鉛引きトタン屋根一部損壊700戸 (28夕) ○花和小学校屋根40坪が吹飛ばされた (28夕)	○電柱の倒壊17本、立木 5 本ほか農作物の被害は甚大でことに高級菜豆は全滅に瀕している (28夕)
	洞爺村	洞爺村		○洞爺温泉ではバンガロー全壊、対岳荘の屋根30坪が破壊された。また洞爺温泉小学校のトタン屋根六坪が吹飛ばされた (28夕)	
	白老町	*白老村		○倉庫 1 棟全壊 (27朝)	
	浦河町	浦河町	○25日午後11時ごろ八戸市長谷部勇さん所有の長生丸 (37トン) 船長佐々木富夫さんほかに13名が乗組、浦河沖合でイカ釣りを終え八戸市へ帰港すべく出港したまま行方不明 (28夕)		

	現在の市 町村名	1954年 市町村名	新 聞 記 事		
			人 的 被 害	建 物 被 害	そ の 他
	えりも町	幌泉村			○午前8時現在漁船1隻沈没、1隻行方不明。また26日午後9時半ごろ岩手県大土町駒林村治さん所有の松福丸（19.9トン）＝船長加賀松五郎さんほか乗組員七名＝がイカ釣りに出漁し幌泉に帰港の際進路を誤って南防波堤に衝突沈没、乗組員は全員救助。船体は放棄。（28夕） ▽海岸が100トンいたむなど大小の被害（29朝）